

第2回 スマートシティ伊勢推進構想策定委員会 議事概要

- 1 日 時 令和5年8月23日(水) 19時00分～20時45分
- 2 場 所 伊勢市役所 本庁舎 東館5階 5-4 会議室
- 3 出席者 別紙座席表のとおり
- 4 協議事項 下記のとおり

○ 前回議事概要、全体スケジュール及び前回資料の補足説明

委員:今回策定する構想は来年度から4年間を構想期間とするものでよいか。

事務局:そのとおり。

○ アンケート、ワークショップについて

委員:スマートフォンにどれくらい慣れているか、仕事で使っているかが分かる項目がある方がいい。

事務局:質問数が多くなることが懸念点。アンケートを分けるやり方も含め検討する。

委員:アンケートは市公式 LINE に登録している方に通知が行くのか。

事務局:そのとおり

委員:ボット形式か、フォーム形式か。高齢者はボット形式でないと回答出来ないという意見がある。

事務局:現在は、フォーム形式だが、検討する。

委員:市公式 LINE で行っているアンケートは、時間帯によって回答率が高いなどは分かるのか。見てもらわないと意味がない。

事務局:定期的に見ており、お昼前などが見てもらいやすい。通知はコントロールしながら、運用している。

委員:複数回回答しようとした場合、拒否することは出来るのか。また、そもそもこのアンケートをやる目的や明らかにしたいことは何か。

事務局:今後の伊勢市にどのようなことを期待されるか、または期待しないかを明らかにすることが目的。

事務局:複数回回答は、IP アドレス制限が掛かっているので、同じ端末からは回答できない。

委員:他の委員の方に、このアンケート方式だけでよいかを聞きたい。

委員:LINE の対象は伊勢市民だけか、市外の方はどうか。

事務局:市外の方も含まれていて、回答することは可能。

委員:Facebook 等での周知はしないのか。

事務局:検討するが、市の SNS 登録者は、大半が LINE 登録者。

委員:前回会議で認知度が低いという話が出た。

事務局:認知度の部分は、一つ目の質問で図る。

委員:7 問に留めているのは回答しやすくするためか。質問数を多くして詳しく聞き

取るのもあり得る。

事務局：質問が少ない方が回答率は上がるので、そのようにしている。

委員：目標回答数 1,000 には何か目論見があるか。インセンティブはあるか。

事務局：目安として、1,000 は欲しい。インセンティブはない。

委員：3 分程度というのと長く感じて回答してもらい辛い。

委員：7 問ということだけ伝えればよいのではないか。

事務局：では今回は時間の目安は出さない。

委員：一部の意見が具体的になっているところがある。

事務局：数字が取ればよいと思っている。抽象的な表現だが、どれくらいの方が推進構想でどうしていきたいかを数字で取ってもいいかと。

委員：アンケート項目がどのような意図で作られたかが合った方がいい。

委員：ワークショップではファシリテーターを付ける予定か。かなり積極的な方しか来ないのではないかと思う。

事務局：職員を付ける予定。

委員：スマートシティとなった時に、紙とペンでやるのはどうか。かなり積極的な方しか来ないのではないか。

事務局：議論の活性化ということを考えると、そうならざるを得ない。

委員：無償で来てもらえるのか、どうやって周知するのか。年齢層などもバラけるようにピックアップするのか、若年層はどの程度からを想定しているか。

事務局：現在、推進協議会に参画していただいている方に周知をお願いする。年齢層はグループごとにバランスよく構成したいと考えており、下は高校生から。

委員：2 時間だと厳しいと思う反面、長過ぎるのもどうかと思う。ただ、スマートシティを掲げる以上、その息吹を感じ取れるようにスマートにやった方がいい。

事務局：スマートに出来るツールがないか、探してみる。

委員：学生は一般の人がいると発言しにくいので、同じ年齢を集めた方がいい。

事務局：検討する。

委員：スマートシティを知らない、期待しないという意見を聞く必要はあるのか。アンケートで聞くのはよいが、ワークショップでは前へ進める議論をした方が、意義があるのではないかと考える。

事務局：募集の時にはそういった場であることを分かるように募集する。

委員：教員に声を掛けると集まる意見が偏る。

委員：会場を鳥羽商船・皇学館会場などにして、ネットで繋ぐ。オンラインで学生を集めてやるのも効果的で楽しくやれそう。開催時間や曜日を検討する必要はあるが。

事務局：事務局のリソースを踏まえて、どこまで協力いただけるなど、また相談する。

○ スマートシティ推進構想草案について

事務局:方向性については、中身を埋めていかないといけない部分がある。皆様にご意見をいただいた上で、市で埋めていく。前回の議論を図式化してあるので、スマートシティでどういう風にしたいか、普段思っていることなど、そこを議論してほしい。いただいたご意見をこちらで仕分けする。事業・暮らしの課題に対して、どう課題解決していくかを議論していけば、方向性が決まっていくと考えている。

委員:取り組み例の枠組みを考えていけばいいということでしょうか。

委員:具体的な話もあると思うが、枠組みをどうするかが先決で、その次に解決するための具体的な事例がある。解決方法は、実際に動く人が考えればよい。伊勢市としてどの分野について力を入れていくかの意見を出せばいいのではないかと。

委員:行政・民間をリングで繋ぐところのリングが何なのかが見えていない。行政が全てのリングにはなれないので、支援していく、誘導していくというのが構想の中に必要。

事務局:推進体制はスマートシティ伊勢推進協議会がプラットフォームになっていく。そこで苦労しているので、皆さんに議論していただき、協議会を充実させていきたい。枠組みはデジタルで解決していくというのも一つの考え方。

委員:枠組みは既にあるので、枠組み同士をつないでいくと書いてもらう方が分かりやすい。

事務局:実証事業をやりながら、進めていく形にしたい。

委員:誰が取り組むのか、主語がないので理解しにくい。夢の話をしたらいいのか。協議会については草案の中で出てくるのか。

事務局:まだ推進体制は示していないが、スマートシティの取組は行政だけでは難しい。会議所や農協などの団体に入ってもらって推進協議会が出来て、その下に商工・観光部会も出来た。それらの会議体が主語になっていく。

委員:協議会の取組として、これらの項目が入るのか。

事務局:そうになっていく。

委員:描く絵の中にこれらの人がやっていくというのは記載されるべき。

委員:リングというより真ん中に行政があるが、自然と繋がっていくのか。

事務局:理想としては、その形を目指して行きたい。

委員:現状と理想は分けて考えた方がよい。

委員:構想なので理想を考えていくべき。参加するメリットがある前提。リングで繋がっているのが推進体制の中の部会と言われると理解しやすい。それぞれの方向性や取組が繋がって、網の目になっているという理解に見える。

委員:市民が見た時、自分はどこにいるのか。例えば困った時はどうすればよいかが見えない。

事務局:明確に主体があり枠組みが決まっていればよいかが、これから作っていく

ということで議論してもらいたい。

委員：例えば閲覧板などは紙だと回している間に期限が過ぎているということもあるので、それをデジタル化し、スマートシティはいらないという人も巻き込んでいく。既に使っている人はさらに底上げしていく。喜びを感じられれば、高齢者も利用していく。

委員：農家もいいものを作っており、いいものを守りたいという思いがあるので、後継者不足に悩んでいる。そこにデジタル技術を取り入れたいとは農家も考えている。

委員：人口が集まっている都市と繋ぐのも考えてみてはどうか。

委員：大雨の情報などを事前に連絡もらっているが、ここが冠水しているなどの情報を LINE などで周知できないか。

委員：河川情報は多くあるが、冠水情報などはあまりない。市民が画像をアップできるような仕組みがあれば使ってもらえるのではないか。

委員：電子母子手帳のデジタル化は考えていないのか。ペーパーレスには出来ないか。

事務局：検討しているが、副本としての電子化で併用している自治体が多いと聞いている。

委員：デジタルの方が使っている時の利便性は高いが、本人が何十年後かに見た時、紙の方がありがたいのも事実。

委員：出生時の体重などが曲線で見られる良さが紙にはある。

委員：電子化ですぐに見られるメリットはあるが、紙のよさもある。

委員：お薬手帳などは全部デジタル化したらよい。薬局にデータで持ってもらえれば、それでよい。

委員：薬局に LINE で処方箋を送って、原本を持っていけばすぐにももらえるサービスが既にある。他のところでもらったものも写真を撮っておけば見られる。

委員：それは薬局のサービスか。

委員：そのとおり。

委員：現状、オンラインの薬剤処方情報は、国に認められた分だけが情報が見られるようになるので、1 か月遅れでしか見られない。そのためにデジタル処方箋を導入した。毎月処方しているものであればよいが、救急搬送の場合などは役立たない。アプリで薬剤情報を見せてもらうのはいいが、それを電子カルテに取り込む方法がない。ウィルス感染の恐れなどもある。全体をデジタル化したらよいが、過渡期なのでそういった問題もある。

委員：スマホで見られると、いざという時に見られるのでよい。

事務局：プライバシーをどうするかに繋がる部分。本人がここまでは見てもいいよと意思表示をする仕組みがあればよい。例えば何度も同じ要件で市の窓口の手続きをしに来る方がいた場合、カメラで撮影して、窓口側が先に準備が出来れ

ば効率的に対応できるが、プライバシーの問題がある。民間側の技術としては、マスクするという事も考えられる。

委員：水道料金の明細は、電気のようにオンライン化する予定はないのか。

事務局：今のところはない。

委員：今やクレジットカードの明細が紙で来ないのは当たり前。むしろお金を取られる時代。例えば、Web 明細でよい方は、住民税を少し割り引くとか、地域ポイントなどで還元するなどすればいい。

委員：ガス事業をしているが、やはりコストとセキュリティが問題になる。費用対効果の問題。

委員：規模が大きければ大きいほどいい。

委員：長期的に見れば得すると思うが、インシャルコストの負担が大きい。

委員：連絡ツールとしてメールを見る人は少ない。そこに送っても滞納が起こる。なので紙しかないのではないのか。

委員：ふるさと納税をしていると、自治体によってはハガキが届く。伊勢市はしているのか。

事務局：このように使ったとのハガキは送っている。

委員：はがきでなくとも、メールに送ればいいのか。買い物する時に結局アドレスが分かる。伊勢市の PR にもなる。また、はがきだとサイズが決まっているので、観光 PR としてもその方がよい。

委員：メールを凌駕するのは、LINE ではないと思う。

委員：メールしかないなと思う。

委員：その人の専用メールボックスみたいなものがあれば付与できるのではないのか。マイナンバーを活用するとか。

○ 事務局からの連絡事項

次回候補日：10月17日(第1候補)

10月25日(第2候補)【委員1名 出席不可】